

令和4年(2022年)8月1日発行

学園創立115周年記念 第13回創立記念日学園協議会

今年の創立記念日学園協議会は6月25日午後1時30分より、駒場キャンパスのアリーナにおいて開催され、学園関係者163名が出席。併せてライブ配信も行われ、約60名がオンラインで視聴した。



駒場キャンパスのアリーナにおいて感染防止対策を徹底したうえで開催

最初に日本工業大学駒場中学校・高等学校の大家勝之校長が挨拶に立ち、学園創立以来115年の歴史をもつ駒場高等学校(現校名)の工業科が来年3月で終了することを報告。今後の決意として「伝統の『人柄を育む』教育を中心に、進学型運営で一層高い目標を目指す。教職員一同、工業科時代の可能性」を語り、努力を続けていきたい」と力強く宣言した。



大塚校長 辻野氏 柳澤理事長

要因として、インターネット普及後に技術革新が飛躍的に進んだことを挙げた。その中で日本はデジタル後進国として埋没し、産業が地盤沈下している」と指摘。この状態を打破するために「経営革新」と「創造的破壊」をもって取り組む「DX」こそが、UCA時代の勝ち残り武器であることを強調した。そして、データテクノロジーを味方にする人材を増やしていくことが重要とし、本学データサイエンス学科の人材育成に期待を込めた。

「デジタル時代がもたらす社会変革と日本の可能性」をテーマに講演が行われた。辻野氏は「ソニー株式会社において要職を務めた後、グローバル日本法人代表取締役社長に就任した。退社後、アレックス株式会社を創業。長年にわたり、デジタルやインターネットの第一線で活躍してきた。」

辻野氏は、ここ20年にわたり世界中でUCA(予測困難)の時代に突入し、あらゆる分野で大きな変革が起こっている」と説明。その最も大きな

8年度以降の普通科併設校名変更、工業科と普通科の定員逆転、普通科専一の決定へと至る同校の変遷について、当時の議事録などを示しながら説明。改革の節目には反対意見もあり、意思統一に向けて理事が腐心した様子も赤裸々に語った。最後に「大きな改革を成すときには大きな抵抗があるが、正しいと思えば思い切った決断が必要だ。今考えても普通科専一の道は正しかった」と締め括った。

EMMS活動の歴史を共有 講演「脱炭素社会に向けたシナリオと 産業界の動き」

EMMS全員大会

5月19日、全教職員を対象とする「EMMS全員大会」が開催された。本大会は、本学のEMMS(環境マネジメントシステム)活動の意義や目的を全員で再確認し、EMMS活動の推進を改めて促すために行われた。

最初に、柳澤章理事長から「日本工業大学EMMS活動の経歴について」をテーマに講演が行われた。柳澤理事長は宮代町に開学した当時から現在に至るまでの周辺環境の変化と、教育環境整備事業の経緯について写真を交えながら紹介。こうした環境施設導入などの条件が背景となって、2001年のISO14001認証取得に繋がったと説明した。

産業界の動き

また、現在のEMMS自主宣言による環境活動が、本学の教育理念である実工学の学びに密接に結びついており、SDGsの視点を取り込むことで、EMMS活動が学生の将来に向けた環境教育として役割を果たしていくことを改めて強調した。

市場研究所の鈴木洋平氏を特別講師として招き、「脱炭素社会に向けたシナリオと産業界の動き」をテーマに講演が行われた。鈴木氏は、国際的な動向の解説に続き、脱炭素を加速させる画期的な施策や数々のアイデアを交えた興味深い内容を紹介した。



鈴木洋平氏

最初に、柳澤章理事長から「日本工業大学EMMS活

動の経歴について」を

説明した。

今夏の省エネの取り組み

例年以上の省エネ活動が必要

昨年度の省エネ実績は、温対法における埼玉県地球温暖化対策推進条例のCO2排出削減目標(基準値4750t-CO2/年の22%削減)に対し32.6%削減を達成した。しかし、エネルギー消費量をみると、照明設備のLED化(当年は本館と11号館)による約40%電力削減効果や老朽化したGHP空調機を高効率のEHP空調機に更新するなど設備改善で削減効果を見込んだものの、省エネ法の原油換算エネルギー削減目標値(原単位で0.555kL/m²以下)に対し、0.562kL/m²と未達。前年度比で13.6%の増加であり、この要因はコロナ感染防止緩和による対面授業の増加や窓を開閉しての強制換気などがある。エネルギー別使用量では、都市ガスが11.8%増加、電力が16.8%増加であった。一方、今年度の東京電力管内における電力需給の予備率は3%を確保できず見通しではあるものの、昨今では最も厳しい状況であるため、例年以上の省エネ活動の協力を求められている。

これを受け、本学では、資源・エネルギー使用管理部が中心となり、CO2排出量は、
①省エネポスターによる啓発活動
②空調の中間期完全停止
③外気温度による熱源連転制御
④クーリビズの励行
⑤授業の休み時間は教室照明・空調機の停止を実施する。
なお、コロナ感染防止として、換気設備の運転は停止しない。また、設備改善による省エネ対策として、老朽化空調機更新による高効率化(EI棟と、照明設備のLED化(W10棟)は計画通り行い、サステイナブルキャンパスの充実に向け推進していく。



今年の節電ポスター

本学オリジナルSDGsロゴマーク制定



本学は6月、オリジナルのSDGsロゴマークを制定した。SDGs活動に関連する媒体、ツール等にこのマークを表示することで、個々の活動実績を見える化し、学内外に効果的に訴求していく。

本学SDGs活動の起源は2001年のISO14001の認証取得に始まり、それ以後、全学で環境保全活動、環境教育を推進してきた。その象徴ともいえる本館屋上の太陽光発電システム「ソーラーチューブ」をロゴマークのモチーフとして採用。全体の配色はSDGsの17目標のアイコンの17色で表現している。

本学園への応援の気持ちが直接届く

「みらい募金」のご案内

「みらい募金」は、寄附者の皆さまが、本学園が重点的に取り組む、奨学金事業、教育・研究推進事業、施設・設備拡充事業の中から用途を指定できる募金制度である。またその他の用途や寄附をする学校を指定することも可能で、本学園を応援いただくその思いが直接届く仕組みとなっている。食堂アルテリーベで実施している100円朝食も、みらい募金によって成り立っており、本学園の更なる飛躍と発展のため、より一層のご支援とご協力をお願いしたい。

2023年度入試説明会開催

今年度は埼玉、新潟、長野の会場で開催。

5月27日、高等学校教諭を対象とした、入試説明会が埼玉キャンパス5号館203教室にて開催された。



大学の近況報告を行う成田学長

当日は、近隣の高等学校を中心に、北は岩手県から西は徳島県まで、コロナ禍にも関わらず、67校の高等学校の参加があった。はじめは成田学長より挨拶と併せて大学の近況報告があり、次に入試室が大学の紹介を行った。続いて、学生による体験報告が行われた。多くの参加者として、応用化学科3年中路中咲さん、建築学科建築コース4年大石健斗さんの2名が、日本工大に入学を決めた理由や、現在に至るまでの学生生活を発表し、最後に受験生や高校生に向けてのメッセージを伝えた。



入学動機などを発表する中路さん

その後、休憩をはさみ、2023年度入試概要を説明し、説明会は閉会した。閉会後は希望する教諭を対象に学内施設見学を実施し、さらに5号館2階ラーニングセンターにおいて、学科および学群教員や学生との個別相談が行われた。多くの参加者に対して、昨年度から実施している学習塾・予備校講師向けの入試説明会も6月3日に埼玉キャンパス会場で開催された。

受験生サイトがリニューアルオープン!

2022年6月に受験生サイトがリニューアルされた。新受験生サイトは大学カラーの青と白を基調とし、「入試情報」や「イベント情報」、「お金のこと」等が調べやすいサイトとなっている。

さらに新コンテンツとして、大学に関する数値情報を1ページにまとめた「数字で見る日本工業大学」や、受験生が自分の興味に合う学科を探ることができる「学部・学科サーチ」、学生のインタビューをまとめた「学生VOICE」等が用意された。



中小企業イノベーションセンターによるエコシステムの形成

技術経営研究科・教授 小田 恭市

本研究科は2005年に開学して以来、500名近い社会人修了生を輩出してきました。修了生は年齢や学歴は言うまでもなく、所属する会社の規模、業種・業態、職種・職位等で多様化しています。なかでも、他の社会人大学院に比べて中小企

業の経営者や後継者、幹部社員が相対的に多いことが特徴です。本研究科修了生の多様化は修了生間の連携によるビジネスイノベーションを生むポテンシャルを高めており、既に修了生間で受発注や共同受注活動等が自然的に発生しています。

こうした修了生の多様性を活かして修了生間の連携の拡大・深化を図り、ビジネスイノベーションを促進する中小企業イノベーションセンター(以下、SMEICと呼ぶ)が本研究科に設立されました。SMEICでは修了生間において

様々なビジネスイノベーションが持続的に生まれようとする諸事業を展開します。結果として、本研究科にエコシステムの形成が期待されます。このエコシステムの形成は本研究科の学生募集を優位にする戦略的意味合いも持っています。

SMEICではビジネスイノベーションを生む基盤づくりとして、修了生の連携を拡大・深化させるための「MOT大交流会」、「トップリーダー研究会」等のイベントを開催し交流機会を提供する

者等を技術経営に強い実践的なコンサルタントへとフラッシュアップする高度コンサルタント養成事業も行います。SMEICが、本研究科においてエコシステム形成を進め修了生の「共創」の場となるように、修了生及び教職員の積極的な参画、協力を期待しております。

専門職大学院 オープンキャンパス

パネルディスカッション | 説明会 | 模擬授業 等の実施を予定しています

2022 8/20 10/15

2023 12/10 1/21

※社会情勢により、日程変更の可能性があります

※最新情報はWEBサイトで https://mot.nit.ac.jp/

お問い合わせ先

日本工業大学 専門職大学院 TEL.03-3511-7591 Mail: mot@kanda.nit.ac.jp

日本工業大学大学院 社会人特別選抜

◆大学院工学研究科(博士前期課程・博士後期課程)

■2023年度 入試日程

Table with columns: 日程, 出願期間, 面接試験, 合格発表, 手続締切. Rows for 一次募集 and 二次募集.

お問合せ先: 教務部教務課 大学院入試係

TEL 0480-33-7507 URL https://www.nit.ac.jp

NIT Open Campus



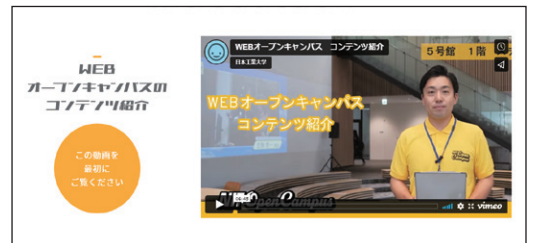
来場型オープンキャンパス

大学・学部学科紹介、資料進呈 個別進学相談、キャンパスツアー・研究室紹介

WEBオープンキャンパス

豊富な動画コンテンツを常時公開中

【今後の日程】 8/27(土)・28(日) 9/10(土) 2023 3/25(土)



新型コロナウイルス感染拡大状況により、内容を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトでご確認ください。

2023年度入試概要

Large table with columns: 入試名称, 併願の可否, 内容, 日程. Rows include 特別選抜(単願), 特別選抜(併願), 共通テスト利用, 一般選抜, 英語外部試験利用, 3月入試, 学校推薦型選抜(指定校), 学校推薦型選抜(公募制), 総合型選抜(課題実践型), 総合型選抜(体験講義型), 総合型選抜(基礎学力型).

受験生サイト 募集要項ページ



・各入試の詳細については、募集要項をご確認ください。 ・お問い合わせ先: 入試室 Tel. 0120-250-267

工業技術博物館 特別講演会・後援会総会

平成30年間に於ける日本の工作機械技術開発の変遷と今後の課題



後援会総会

工業技術博物館後援会の2022年度総会・特別講演会が6月2日、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。対面での参加者は26名と少数ではあったが、今後の各種企画のオンライン開催に当たってのノウハウの獲得も目指して、新型コロナウィルス感染対策をしっかりと行いながら、学友会館にて開催された。



講師の清水博物館館長

「平成30年間に於ける日本の工作機械技術開発の変遷と今後の課題」の分析結果が報告された。清水博物館館長による特別講演では、まず、博物館活動の振り返り、その後、清水伸二博物館館長による「産学連携による博物館活動を展開する当博物館ならではの企画である」などの感想が寄せられた。

事後から挨拶があり、博物館運営への後援会各員の言葉が述べられた。続いて2021年度事業報告・決算報告、2022年度事業計画・予算案、会則改定案、役員案について審議があり、承認された。会則改定では、特に「知匠会員」という新しい特別会員枠が設けられることとなった。本改定の趣旨は、25年以上後援会会員として活動してきた、70歳以上の経験豊富な会員に年会費などの負担なく、気軽に各種企画に参加してもらい、「知の匠」として若手にできる限りの過去の貴重な経験などを語り継いでもらうこととするもので、当博物館ならではの画期的な取り組みとして今後の成果が期待される。

就職支援情報

インターンシップのルール見直し、学生の評価を採用に活用可能に！

夏休みに入り、2022年春卒業・修了見込の学生（現在、大学3年生・大学院1年生）を対象にしたサマリーンターンシップ（就業体験）が本格化している。



業界・インターンシップセミナー

コロナ不況を越えて企業の採用意欲が高まり、人材獲得競争が激しくなっている中、インターンシップから採用に繋がったと考える企業が増えている。その一方で、政府は2025年春卒業の学生（現在、大学2年生）から「インターンシップ」のルールを見直すこととした。これは、インターンシップに参加した学生の評価を企業が採用の判断材料として活用することを認めるものである。活用には一定の条件を満たすことが必要で、具体的には最低5日間以上・実施期間の半分超は就業体験・現場社員による指導とフィードバック・長期休暇期間に実施というものである。これまでも一部の企業では、インターンシップ参加者を早期選考と呼ぶなど優遇しており、就活ルールは完全に形骸化していたことから、実態に合わせて変えようというのが今回の変更である。そのため実質的には、今年度から前倒しで

活用することを認めるものである。活用には一定の条件を満たすことが必要で、具体的には最低5日間以上・実施期間の半分超は就業体験・現場社員による指導とフィードバック・長期休暇期間に実施というものである。これまでも一部の企業では、インターンシップ参加者を早期選考と呼ぶなど優遇しており、就活ルールは完全に形骸化していたことから、実態に合わせて変えようというのが今回の変更である。そのため実質的には、今年度から前倒しで

実施する企業があると予想される。今年は、就職活動の前哨戦としてインターンシップと濃くなりそうだ。本学における企業アンケートにおいても参加者に対しての「何らかの優遇策を講じる」と答えた割合が8割に上った。また、これらの条件は満たさないがワンデーインターンシップ（1日仕事体験）などもこれまで以上に積極的に実施されるのではないかと思われる。



各自治体のU・Iターン説明会も実施

インターンシップは、実際の仕事やグループワークを体験することで働くイメージを明確にし、仕事選びの指針を得ることができ、人生における重要な判断に向けた貴重な経験ができる機会であり、積極的に参加するよう勧めたい。

コンテストの参加者を募集中!

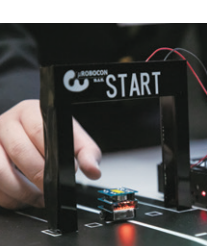
NITプロダクトデザインコンテスト2022



参加登録締切 8/22 授賞式 10/30
昨年からの応募条件を大幅にリニューアル。オリジナルアイデア、自由、3Dモデリング、3Dプリンタ造形の4部門で、自由な発想に基づく魅力的なプロダクトの提案を期待しています。

作品送付先/お問い合わせ先
NITプロダクトデザインコンテスト事務局
E-mail: pdcontest@nit.ac.jp
https://www.nit.ac.jp/department/machine/nitpd

第16回 マイクロロボコン高校生大会



申込締切 10/31 開催日 12/10
約1インチサイズの小型ロボットによるライトレース競技です。初心者でも参加しやすいようネームカード(名刺)部門も設置。昨年はオンラインでの実施でしたが、今年は本学会場で実施予定です。

エントリー/お問い合わせ先
先進工学部ロボティクス学科 秋元俊成
TEL:0480-33-7716(学科事務局) E-mail: akimoto@nit.ac.jp
http://ise.nit.ac.jp/ise/mrc.html(エントリーはHPから)

第36回 建築設計競技



提出期限 8/31 入賞発表 9月中旬
建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計の腕試しの場として、また本学建築学科の設計教育活動の一環として、毎年開催しています。今回の課題は「その土地に開いて/閉じる ワンルーム」です。

作品送付先/お問い合わせ先
建築設計競技委員会
TEL:0480-33-7676(入試室) E-mail: kenchiku-compe@nit.ac.jp
http://nit-kenchiku.jp/activities/

デジタル、データを用いた技術革新が第四次産業革命を引き起こす

5月16日、先進工学部情報メディア工学科、

データサイエンス学科の新生対象の講演会が催された。講師には、日本IBMの石田秀樹氏を迎えた。石田氏は「組織」と一人の側面から企業変革に携わり、大企業を中心に20年以上のコンサルティング経験に基づいた実践的な変革支援に従事してきた。

講演では、IBM社が開発した人工知能「Watson」の実績として、映画の予告編をわずか1日で作成した例、買収先企業の選定など経営に関する重要な意思決定支援を行った例を紹介。様々な革新的デジタル技

術の登場が社会に変革をもたらす時代「第四次産業革命」を迎えていることについて説明した。さらに、今後の企業においては、顧客への価値提供の再定義を進め、デジタル技術を駆使して差別化、競争優位性を生み出すDX(デジタルトランスフォーメーション)が生き残りのために必須となること、そして、これから消えていく仕事と新たな仕事が増えるのは何か、これから求められるスキルとは? など、学生が自らの将来を



講師の石田氏

描くために非常に重要となる社会の未来像について言及した。聴講した新生は「自分たちが置かれている現在と今後について深く考える機会となった」「身の回りのことについて自ら問題提起し、解決案を考える習慣をつけたい」と感想を述べた。

留学生バスツアー実施 富士山と忍野八海を満喫



富士山をバックに記念撮影

本学在籍の外国人留学生を対象とした研修バスツアーが、6月5日に実施された。このバスツアーは、日本の歴史や文化を知ってもらうこと、そして、留学生同士の親睦を図ることを趣旨としている。今回の参加者全員が感染症対策のルールをしっかりと守り、楽しく有意義な研修バスツアーとなった。

個別就職相談会

対象 学部4年生、大学院2年生の未内定学生の保護者

日時 2022年10月1日(土) 9:00~16:00

場所 日本工業大学 就職支援課

対象の皆様には、9月上旬にご案内をお送りいたします

お問い合わせ先

日本工業大学 就職支援課

TEL:0480-33-7510 FAX:0480-33-7562

E-mail: syusyokuka@nit.ac.jp

表面技術協会 令和4年度協会賞受賞



機械工学科の竹内貞雄教授が2月28日、表面技術協会の第73回通常総会において、令和4年度協会賞を受賞した。受賞業績は、「ドライプロセスによる炭素系硬質膜の合成ならびに機械的諸特性の解明」。

独自の工夫を盛り込んだ密着力の評価試験機、摩耗試験機、摩擦試験機などを製作してダイヤモンド膜の残留応力と摩耗特性の関係、ポロン添加と機械的諸特性の関係の解明等を行った。30年に及ぶダイヤモンド膜合成に関する周辺技術の開発から基礎物性・機械的諸特性評価までの幅広い領域についての先駆的研究成果が評価された。

航空機や自動車の燃費向上に不可欠な素材であるカーボンファイバーの加工には、ダイヤモンド膜をコーティングしたドリルやエン



竹内教授の著書

文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門受賞

機械工学科の加藤史仁准教授が4月8日、大阪大学との共同研究で、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門を受賞した。受賞研究名は「超高度無線MEMS水晶振動子センサーの研究」。

水素振動子センサーは、診断や創薬分野で重要な高感度バイオセンサーや、水素エネルギー社会の実現に必須の高感度センサーへの対応が期待されてきたが、構成材料の供給不足による駆動が可能なため安全、安心、快適な社会の実現に貢献することが期待できる。



超高度無線MEMS水晶振動子センサーの研究

造上、更なる高感度化は難しい。本研究では独自の無線技術を考案しMEMS（微小電気機械システム）技術を用いて具現化し、水素振動子センサーの感度を飛躍的に向上させた。

研究成果により、高感度なバイオセンサーやガスを検知するセンサーとして、多くの既存センシングシステムに採用される可能性がある。また、無線かつ無給電による駆動が可能となるため安全、安心、快適な社会の実現に貢献することが期待できる。



スマホ操作をアドバイスする学生

スマホ・パソコンの相談に ボランティア学生が対応

5月初旬から7月下旬にかけて、情報メディア工学科の学生が宮代町民を支援した。同町社会福祉協議会の主催で、福祉交流館「すてっぷ宮代」において定期的に開催している。

この活動は授業の一環として組み入れられており、平日に1〜4名の学生が交代で常駐。相談に訪れた町民に対しスマートフォンの設定方法や使い方、PCソフトの操作方法、インターネットでの予約や申込方法など、相談内容に合わせてアドバイスを行った。1日平均8〜9名の相談者が来館し、多い日には20件ほどの相談を受けている。相談者からは「具体的にわかりやすい言葉で教えてくれた」「とても助かった」といった感想が届いており、大変好評だ。

なお、なんでも相談会は夏休みのため7月下旬で一時休止、10月より再開予定となっている。

この一瞬を
キリトリ!

町公式ツイッター限定で、宮代の夏をテーマに写真コンテストを開催しています。

町の風景やイベント、食や歴史など「宮代のいいところ」を切り取った写真を募集します。入賞作品は町

広報紙やホームページなど様々な場面で紹介します。

町のアカウントをフォローし、撮影日・撮影場所・作品名を記載し、「#みやしろまち」を付けて投稿してください。

夏部門は8月末までです。日本工業大学でその一瞬をお待ちしています!

子供たちの交流の場 工作教室に100名参加



5月28日、無印良品東武動物公園駅前店と宮代町社会福祉協議会（ゆうやけひろば）の協力を得て、東武動物公園駅前「みんなの広場」において「みんなで創るこども居場所」が開催された。本イベントは宮代町子育て支援課からの要望によるもので、子供を対象とした食事提供の場として「風船ジェットカーを作ろう」「風船ロケットを飛ばそう」などで、工作教室だけでも100名近い子供達が参加した。

本イベントは今回初めての試みであったが、大変好評で、次回以降の定期開催が望まれている。

後援会定期総会

5月22日、本学学友会館にて後援会定期総会が開催された。委任状を含め145名が出席。議案（事業報告、決算報告、事業計画、予算案、理事・監事選出）は慎重審議の上、全て承認された。総会は無事終了した。新執行部は次の通り。

会長 安齋義直（東京）

副会長 高橋 仁（福島）

〃 松本伸一（埼玉）

〃 本田和之（神奈川）

〃 櫻井和博（山口）

〃 藤枝裕子（千葉）

〃 安田泰久（神奈川）

〃 沼尾正晴（埼玉）

〃 磯見浩之（石川）

〃 西山 聡（新潟）

総会終了後は、学内見学も行われた。

工友会定時総会

新型コロナウイルスの影響を受け、本年度も一般社団法人日本工業大学工友会定時総会は、6月11日に書面審議で行われた。

議案は次の通り。

第一号議案：2021年度事業報告並びに収支報告に関する件

第二号議案：2022年度事業計画並びに収支予算案に関する件

第三号議案：定款の規定に基づく理事及び監事選任に関する件

第四号議案：定款の改正に関する件

審議の結果、すべての議案が承認された。代議員の皆様、ありがとうございました。

人事異動

【任命】（5月1日付）

◆学生支援部長補佐 劉雲准教授

【退職】（5月31日付）

◆水谷耕平主任（企画広報室）

◆内田祐一教授（応用化学科）／出張先「カナダ（7/30〜8/8）」／目的「第8回製鋼の科学と技術に関する国際会議（ICS）」での発表と討議

NIT SDGs SDGs入門編の ワークショップを開催

5/16〜6/25、LCセンターを会場に、SDGs入門編として「水と緑の保全」や「子どもの貧困」「ジェンダー平等」などをテーマとする関連ビデオ視聴とフリートークによるワークショップを開催。今後は秋のキャンプに向け、最も関心の高かった「水と緑のキャンパス再生」（略称：チームMMC）を掲げ、既存のピオトープエリアを

フィールドに、生態系調査や水質分析などを含めた「池のかいぼり」の計画を進める。



ワークショップの様子

20チームがドッジボールで熱戦!!

6月18日、体育祭実行委員会主催のスポーツイベント「球技大会（ドッジボール）」が、陸上競技場で開催された。

新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況だが、学生交流の貴重な場であることを鑑み、感染防止策を徹底し実施したものである。

クラブ団体を中心に20チーム余りが参加し、久しぶりのスポーツイベントに学生も盛り上がりを見せ、熱戦が繰り広げられた。



熱心に工作指導を行う榎橋准教授(右)と学生

NITクリエイティブ株主総会

NITクリエイティブの第55期定時株主総会が5月28日に開催された。

最初に原隆之社長より、当期の事業経過と決算内容に関する報告があり、質疑応答を経て満場一致で承認された。

続いて、任期満了に伴い取締役4名が重任、1名が新任され、社長には

後援会定期総会

5月22日、本学学友会館にて後援会定期総会が開催された。委任状を含め145名が出席。議案（事業報告、決算報告、事業計画、予算案、理事・監事選出）は慎重審議の上、全て承認された。総会は無事終了した。新執行部は次の通り。

会長 安齋義直（東京）

副会長 高橋 仁（福島）

〃 松本伸一（埼玉）

〃 本田和之（神奈川）

〃 櫻井和博（山口）

〃 藤枝裕子（千葉）

〃 安田泰久（神奈川）

〃 沼尾正晴（埼玉）

〃 磯見浩之（石川）

〃 西山 聡（新潟）

総会終了後は、学内見学も行われた。

地域別教育懇談会

日本工業大学後援会が主催する「地域別教育懇談会」は今年度も支部ごとの開催を見送り、大学会場での集中開催といたします。開催日と対象地域は以下の通りです。詳細につきましてはご自宅にお送りする案内状をご覧ください。

近県（埼玉・東京・神奈川）対象
10月2日（日）

近県以外の地域対象
10月16日（日）

本学の研究室を紹介するTV番組

みらいウォッチ

テレビ埼玉 毎週日曜日（全24回）
16:55〜17:00
7月10日（日）より放送中!

計報

日本工業大学第7代学長・神馬敬先生が、令和4年6月1日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆関根路代講師（共通教育学群）／出張先「アメリカ」での資料収集